

現代文B	報告課題第六回	年	組	氏名
	解説			

報告課題第六回では、三つの詩が問題として取り上げられています。ここでは、それぞれの詩の大意と主題を解説していきます。

大意・・・文章で、言おうとしている要点。大体の意味。

主題・・・文学作品あるいは芸術作品では表現しようとする中心的内容。本題をさし、テーマとも呼ばれる。

【そこにひとつの席が】

大意

「恋人」との愛は、「僕」に何をもたらすのかを明らかにさせたいと、その「恋人」を奪い去ってしまう俗世間的なもの「この世の掟」に対する怒りも嘆きも、はつきりとしたものにはなりにくい。そしてまた、怒りや嘆きのいくぶんかは、それをどうすることもできない自分自身に向けられたものであることも忘れてはならない。

主題

疲れ果てた「僕」の魂を癒してくれる「恋人」を「僕」の手もとから奪い去ってしまう俗世間的なものに対する、怒りと嘆き。

【この世】

この詩には、リフレイン（強調法）が多く使われています。皆さんが二年生の時に習った文章表現がこの詩には出てきますので、探してみてください。

大意

人間には同じように見える水も、場所や季節などによって違っているし、それを自らもまた互いもよく知っている。水のなかに暮らす魚や水草たちもよく知っていて、自分たちの生活に反映させている。風もまた場所や季節などによって微妙に違いがあることを自らも互いもよく知っている。風といつも密接に暮らしている鳥や樹々はその違いをよくわきまえて生活に反映させている。微妙に違いがあるこれらの水や風は地球を覆いながら大地を優しく包み込んでいるのである。なぜならこうした水や風のおかげで、無数の生命や、さまざまな風景や音や季節等の豊かな地球が生み出されているからである。

主題

魚や水草、鳥や樹木が、地球上の水と風の違いをよく知り、それを生活に反映させていることを強調することで、それに反する形で、人間がいかに自己中心的に生活しているかを考えさせている。

【永訣の朝】

あまりに有名な宮沢賢治のこの作品は、きちんと文節を意識して読み進めていかないと、意味不明は文章に早変わりする厄介な作品です。また、仏教用語や普段の生活では使われないような単語が出てきますので、随時、調べながら読み進めていきましょう。

大意

今日中に妹は遠い世界へ行こうとしている。「わたくし」はその妹に心の中で呼びかけている。外はみぞれが降っている。妹が「わたくし」に「あめゆき」を取ってきてくださいと頼んだので、「わたくし」は幼い頃からの思い出に満ちた二つのかけた陶碗にそれらを取ろうとして表に飛び出した。妹が死んで生まれ変わるはずの空は暗くて乱れた様子である。「わたくし」は妹が、残される兄のこれからの一生を明るくさせるために頼んだのだと理解して、自分は真つすぐに正しく生きて行くから心配するな、と語りかける。外に出てみると「ふたきれのみかげせきざいに」みぞれが寂しくたまっている。二人が二つの世界に別れてしまうことを示すように、固体と液体という二つの相に別れたみぞれを、「わたくし」は、最後の食べ物として持つて帰ることにしよう。妹は暗い屏風や蚊帳の中で青白く最後の燃焼をしている。この妹への最後の食べ物である雪は、妹がこれから行く天の世界とは思えないほど恐ろしく乱れた空から落ちてくるにもかかわらず、真つ白であり、それは今度生まれてくるときは自分のことばかり苦しまないような生物に生まれてくる、という妹にふさわしい白さなのだ。そんな妹が生まれ変わるのは、釈迦の滅後のこの世界の人々を救おうとして弥勒菩薩が待機している兜率天にちがいないのだから、「わたくし」はこのふたわんの雪が、兜率天の食べものに変わり、すべての人々の幸せを念じる妹の食べ物として、再び空から降ってくることを願うのである。

主題

今まさに死のうとしている妹の最後の食べ物を取りに行く「わたくし」の、妹の天への転生を願う気持ちと、一人で行かせることへの不安やおそれ。

以上が要約と内容のポイントになります。これらを踏まえて報告課題に取り組んでいきましょう。